

介護技術の向上及び技術伝承の為の理念・方針

ふじみ苑の介護技術理念

ふじみ苑では、入居者一人ひとりがどのような状態にあっても、日々穏やかに安心して過ごす事でき、自分らしい（その人らしい）生活を営めるよう、介護職員は「目に見える介護技術（生活支援技術）」ならびに、「目には見えない想いを実現できる介護技術（心を支援する技術）」の向上に努める。

ふじみ苑介護技術方針

一人ひとりの生活に合わせた介護の実践

□介護職員は、一人ひとり生活習慣や思いをしっかりと把握し、入居者個々の「その人らしさ」を大切に生活支援を提供するため、アセスメント力（情報収集力）と、そこから見える必要な支援に対し、適切に提供できる様々な介護技術を身につける。

常に考え、想像し、やってみる

□介護職員は、専門職として現状に甘んじることなく、常に問題意識や課題意識をもち、改善方法をあらゆる視点で考え、実際に提供するなかで自らの介護技術を高める。

□介護職員は、言葉を発する事のできない入居者がどのような想いで生活しているかを、「もしも自分であったなら」と自らに置き換える、「〇〇ではないだろうか」と共感するなど、「察する」技術を高める。

介護の専門性の向上

□介護職員は自らの経験だけではなく、入居者のアセスメントデータを基に、介護における論理性、客観性をもった介護実践が行えるよう、自ら知識や技術の習得に努めると共に、先輩職員は会得した技術を研修会や実践の中で後輩職員に伝え職員全体を専門職として向上させる。